

# 第3次長野県スポーツ推進計画【概要版】

## 計画策定の趣旨

- 新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大の影響により、あらゆる世代のスポーツ活動が大きな制限を受け、多大な悪影響を及ぼした一方で、スポーツが日々の生活や社会に活力を与えるなど、優れた力や価値があることを再認識。
- スポーツの持つ力や価値を活用し更に高めることにより、県民一人ひとりの生活や心がより豊かになるといった「ウェルビーイング」の実現を目指し、今後5年間において本県が推進していくスポーツの施策を明らかにするべく、新たなスポーツ推進計画を策定。

## 計画期間

令和5年度（2023年度）～令和9年度（2027年度）

## 計画の位置付け

- スポーツ基本法第10条第1項の規定による「地方スポーツ推進計画」
- 「長野県総合5か年計画」及び「第4次長野県教育振興基本計画」に対応するスポーツ分野の個別計画

## 基本理念

**スポーツの力で切り拓く長野県の未来**

### 基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

- 《主な現状と課題》
- 子どもの体力の低下傾向
  - 運動をする子どもとしない子どもの二極化
  - 運動嫌いを生まないための体育授業の工夫
  - 公立中学校等の学校部活動の地域クラブ活動への移行
  - 子どもがスポーツに参加しやすい地域のスポーツ環境の整備

- 《主な5年後の目指す姿》
- 長野県版運動プログラムが普及し、体を使った遊びが好きな子どもが増え、屋内外で運動をする元気な子どもたちが増加している。
  - 効果的なICTの活用により、それぞれのニーズに応じて、運動の技能差にかかわらずに体育授業の充実が実現されている。
  - 地域の持続可能で多様なスポーツ環境が整備され、子どもたちの多様な体験機会が確保されている。

- 《主な施策の展開》
- 幼児期からの運動遊びの推進
  - 効果的なICTの活用による個別最適な体育・保健授業の推進
  - 学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、地域を拠点としたスポーツ環境づくり及び指導者の確保や質の向上を図るための取組の支援
  - 障がいのある子どもの運動機会の充実、理解の促進

#### 《主な数値目標》

指標名	現状	目標 (R9年度)
体力合計点	49.0点 (R4年度)	<b>52点</b>
運動が好きな子どもの割合 (中学生女子)	77.2% (R4年度)	<b>80%</b>
1週間の運動時間が60分未満の子どもの割合 (中学生女子)	18.2% (R4年度)	<b>17%以下</b>

### 基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実

- 《主な現状と課題》
- 習慣的に運動・スポーツをする成人は約6割
  - コロナ禍の影響等により、直接スポーツ観戦率・スポーツボランティア参加率は共に1割未満に低下
  - 地域のスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団等）の活性化
  - 障がい者スポーツの参加機会の拡大と理解促進（共生社会の実現）

- 《主な5年後の目指す姿》
- 多くの県民が余暇時間を有効に使い、適性や目的等に応じて、家族、仲間、多世代間等の交流を通じ、スポーツ活動を楽しんだり、スポーツイベントを観戦するなど、充実したスポーツライフを送っている。
  - 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、社会体育団体やその他のスポーツクラブ等が、それぞれの地域で充実した活動を展開している。
  - 障がいの種類、程度、適性や目的等に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。

- 《主な施策の展開》
- 「する」「みる」「ささえる」スポーツへの参画人口の拡大と定着化
  - スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブなど地域のスポーツクラブとの連携強化
  - 誰もが身近で安全に利用しやすいスポーツ施設の充実・維持管理
  - スポーツを通じた共生社会づくりの推進

#### 《主な数値目標》

指標名	現状	目標 (R9年度)
運動・スポーツ実施率 (成人の週1日以上)	60.8% (R3年度)	<b>70%</b>
直接スポーツ観戦率	8.0% (R3年度)	<b>20%</b>
スポーツボランティア参加率	4.2% (R3年度)	<b>15%</b>

### 基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成

- 《主な現状と課題》
- 国民体育大会における本大会での成績の低迷
  - 専門的な医科学サポート体制の整備
  - 先端技術を活用した効果的な競技力向上対策
  - 熟練した指導者の高齢化、女性指導者の不足
  - アスリートの経験・技術の活用

- 《主な5年後の目指す姿》
- 2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得を目指し、本県の競技力が向上している。
  - 本県のトップアスリートが県内のどこでも医科学サポートを受けられ、最先端の科学的な強化指導が受けられる環境が整備されるとともに、スポーツに親しむ一般県民にも医科学サポートが浸透し始めている。
  - 長野県で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、本県のスポーツ振興を支える好循環が形成されている。

- 《主な施策の展開》
- 2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯獲得に向けた競技力向上対策
  - 先端技術を活用した競技力向上対策
  - 県内どこでも医科学的なサポートを受けられる「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築
  - アスリート等の県内就職を支援する「長野県アスリート就職支援事業」の強化

#### 《主な数値目標》

指標名	現状	目標 (R9年度)
国スポ天皇杯 (男女総合) 順位	15位 (R4年)	<b>5位以上</b>
全国大会におけるジュニア入賞数 (国スポ (少年)、インターハイ及び全国中学校体育大会の入賞数)	254人・団体 (R4年度)	<b>300人・団体以上</b>

### 基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用

- 《主な現状と課題》
- スポーツ大会・合宿等を通じた地域活性化
  - 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運等を活用した人々の交流促進
  - プロスポーツチームと連携した地域活性化等
  - コロナ禍を経験し、運動やスポーツを通じた健康づくりの重要性を再認識

- 《主な5年後の目指す姿》
- 山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために日本全国・世界各地との交流が活発に行われている。
  - プロスポーツと連携・協働した事業が盛んに行われ、地域振興につながっている。
  - フレイルの増加や地域コミュニティの弱体化等、様々な社会問題へスポーツの力が多面的活用され、課題解決に寄与している。

- 《主な施策の展開》
- 県スポーツコミッションによる大会やスポーツ合宿の誘致促進による地域活性化
  - 山岳スポーツやウィンタースポーツなど本県ならではのスポーツの魅力の発信
  - 県内のプロスポーツチームと連携した青少年の健全育成や観光振興
  - 運動・スポーツを通じた健康づくりの推進

行こう。それぞれの頂へ。



**信州やまなみ国スポ・全障スポ**

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会




長野県PRキャラクター「アルクマ」  
©長野県アルクマ